

森田美弥子教授 略歴・研究業績

[学 歴]

- 昭和46年4月 国際基督教大学入学
- 昭和50年3月 国際基督教大学教養学部教育学科教育心理学専攻卒業
- 昭和50年4月 名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程入学
- 昭和52年3月 名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程修了
- 昭和58年4月 名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士後期課程入学
- 昭和62年3月 名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士後期課程 単位取得満期退学
- 昭和62年4月 名古屋大学大学院教育学研究科研究生（昭和63年3月まで）

[職 歴]

- 昭和52年4月 神経精神科刈谷病院 臨床心理室（昭和58年3月まで）
- 昭和63年4月 名古屋大学学生相談室専任相談室員（平成6年9月まで）
- 平成6年10月 名古屋大学医療技術短期大学部基礎教育科助教授（平成9年9月まで）
- 平成9年10月 名古屋大学教育学部人間発達科学科助教授（平成12年3月まで）
- 平成12年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授（現在に至る）
（同年、大学院重点化に伴う改組により所属名も変更）
- 平成17年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理発達科学専攻長（平成19年3月まで）
- 平成19年4月 名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター長（平成23年3月まで）
- 平成22年4月 放送大学客員教授（平成24年3月まで）
- 平成24年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科副研究科長（平成28年3月まで）
- 平成25年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科評議員（平成28年3月まで）

[学会活動]

- 平成元年4月 日本臨床心理士会代議員
（～平成3年3月、平成15年4月～平成18年3月、平成23年4月～平成27年3月）
- 平成4年4月 愛知県臨床心理士会理事
（～平成9年3月、平成15年4月～平成18年3月、平成21年4月～平成27年3月）
- 平成12年4月 愛知県臨床心理士会会長（平成15年3月まで）
- 平成15年4月 愛知県臨床心理士会副会長（～平成18年3月、平成21年4月～平成24年3月）
- 平成18年4月 日本ロールシャッハ学会理事（平成24年3月まで）
- 平成21年5月 東海心理学会常任理事（平成27年5月まで）
- 平成22年5月 日本心理臨床学会代議員（現在に至る）
- 平成23年4月 名古屋ロールシャッハ研究会運営委員代表（現在に至る）
- 平成24年4月 日本ロールシャッハ学会会長（平成30年3月まで）
- 平成24年5月 日本心理臨床学会理事（平成26年5月まで）
- 平成27年5月 東海心理学会会長（平成30年5月まで）
- 平成28年12月 日本学校メンタルヘルス学会評議員（現在に至る）

森田美弥子教授 略歴・研究業績

【社会的活動】

- 平成11年6月 名古屋いのちの電話スーパーヴァイザー（平成14年3月まで）
- 平成12年4月 名古屋市精神保健福祉審議会委員（平成18年3月まで）
- 平成13年4月 愛知教育大学教育実践総合センター運営協議会委員（平成17年3月まで）
- 平成14年4月 (財)被害者サポートセンターあいち理事（平成16年5月まで）
- 平成14年4月 愛知県精神保健福祉協会理事（平成18年3月まで）
- 平成15年4月 名古屋国際センター 外国人こころの相談スーパーヴァイザー（平成23年3月まで）
- 平成18年4月 (財)名古屋大学出版会評議員（平成20年3月まで）
- 平成19年6月 愛知県留置施設視察委員会委員（平成22年5月まで）
- 平成22年4月 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理分野の専門職大学院の教育内容と方法に関するガイドライン検討委員会委員（平成23年3月まで）
- 平成22年12月 日本学術振興会科学研究費委員会審査委員（平成23年11月まで）
- 平成23年4月 日本臨床心理士養成大学院協議会理事（平成28年3月まで）
- 平成29年4月 日本臨床心理士資格認定協会教育研修委員会委員（現在に至る）

研究業績

〈編著書〉

1. 臨床実践の知—実践してきたこの私 2003 田畑治・森田美弥子・金井篤子編 ナカニシヤ出版
2. 21世紀の心理臨床 2003 蔭山英順監修・森田美弥子・川瀬正裕・金井篤子編 ナカニシヤ出版
3. 臨床心理学入門事典 2005 岡堂哲雄監修・大熊・土沼・橋本・長谷川啓三・森田美弥子編 至文堂
4. 臨床心理査定研究セミナー 2007 森田美弥子編 至文堂
5. 子どものロールシャッハ反応—形態水準と反応内容— 2009 松本真理子・森田美弥子監修・鈴木伸子・坪井裕子・白井博美・畠垣智恵・松本真理子・森田美弥子 金剛出版
6. 実践ロールシャッハ法—思考・言語カテゴリーの臨床的適用— 2010 森田美弥子・高橋靖恵・高橋昇・杉村和美・中原睦美 ナカニシヤ出版
7. 児童・青年期臨床に生きるロールシャッハ法 2013 松本真理子・森田美弥子・小川俊樹編著 金子書房
8. 心の専門家養成講座①臨床心理学実践の基礎その1—基本的姿勢からインテーク面接まで— 2014 森田美弥子・松本真理子・金井篤子監修・森田美弥子・金子一史編 ナカニシヤ出版
9. 心の専門家養成講座②臨床心理学実践の基礎その2—心理面接の基礎から臨床実践まで— 2015 森田美弥子・松本真理子・金井篤子監修・金井・永田雅子編 ナカニシヤ出版
10. 心の専門家養成講座⑧産業心理臨床実践—個人（人）と職場・組織を支援する— 2016 森田美弥子・松本真理子・金井篤子監修・金井編著 ナカニシヤ出版
11. 災害に備える心理教育—今日からはじめる心の減災— 2016 窪田由紀・松本真理子・森田美弥子・名古屋大学こころの減災研究会 ミネルヴァ書房
12. ロールシャッハ法の豊かな多様性を臨床に生かす—1症例をめぐるさまざまなアプローチから— 2017 氏原寛・森田美弥子編 金子書房
13. ロールシャッハ法解説—名古屋大学式技法— 2018 名古屋ロールシャッハ研究会編・森田美弥子・加藤淑子・高橋昇・高橋靖恵・坪井裕子・長瀬治之・畠垣智恵・山田勝責任編集 金子書房

〈分担執筆〉

1. 生活療法との接点をめざして 1982 村上英治・池田豊應・渡辺雄三編 心理臨床家—病院臨床の実践— 誠信書房
2. 家族への径—ある分裂病者の家族療法— 1984 村上英治監修 生きること・かかわること—人間への臨床心理学的接近— 名古屋大学出版会（服部孝子と共同）
3. 生活療法 1989 伊藤隆二編 教育治療法ハンドブック 福村出版
4. キャンパスにおける心の成長 1992 田畑治・蔭山英順・小嶋秀夫編 現代人の心の健康—ライフサイクルの視点から— 名古屋大学出版会（鶴田和美と共同）
5. 大学生の不登校—対人恐怖傾向：不登校を契機に新たな自分づくりを始めた学生たち 1994 稲村博編 登校拒否のすべて 第一法規出版
6. ロールシャッハ法(2)分類記号とその意味 1995 池田豊應編 臨床投映法入門 ナカニシヤ出版
7. 幻の世界を生きる人—現実へのカムバックを果たすとき— トラブルメーカー君にも一瞬の思いやり—ささやかな感動を生んだもの 1995 菅野泰蔵編 こころの日曜日3 研友企画出版
8. 会うは別れの始まりなり 仕事があることはやはりうれしい？ 1996 菅野泰蔵編 こころの日曜日4 研友企画出版
9. 良い娘からの脱皮 1998 鳴沢実編 こころの発達援助 ほんの森出版
10. 医療に役立つ心理療法 1998 藤田主一・園田雄次郎編 医療と看護のための心理学 福村出版
11. 青年期を生きるということ—学生相談と成長促進 1999 池田豊應・後藤秀爾編 心の臨床・その実践 ナカニシヤ出版

森田美弥子教授 略歴・研究業績

12. カウンセリング来談行動に見る自立と依存 2000 小嶋秀夫・速水敏彦・本城修次編 人間発達と心理学 金子書房
13. 荒れる分裂病者との描画療法の試み 2000 菅佐和子編 看護に生かす臨床心理学 朱鷺書房
14. 対人関係の相談事例から 2001 鶴田和美編 学生のための心理相談 培風館
15. 現代社会と心の問題 2002 梶田正巳編 学校教育の心理学 名古屋大学出版会
16. 臨床の現場から学ぶ臨床心理学的査定 2007 渡辺雄三・総田純次編 臨床心理学にとっての精神科臨床－臨床の現場から何を学ぶか 人文書院
17. 医療に役立つ心理療法 2009 藤田主一・山崎晴美編 新・医療と看護のための心理学 福村出版
18. 臨床心理アセスメントにおけるフィードバックと治療関係 2009 竹内健児編 事例でわかる心理検査の伝え方・活かし方 金剛出版
19. ロールシャッハ法 2012 津川律子編 投映法研究の基礎講座 遠見書房 (津川律子と共同)
20. 心の問題を抱える子どもの援助に向けて 2013 速水敏彦編 教育と学びの心理学－基礎力のある教師になるために－ 名古屋大学出版会 (松本真理子と共同)
21. 著者らの研究調査から 2013 松本真理子・ソイリ・ケスキネン編 フィンランドの子どもの支える学校環境と心の健康－子どもにとって大切なことは何か 明石書店
22. 生徒指導・スクールカウンセリング 2014 日本青年心理学会企画 新・青年心理学ハンドブック 福村出版
23. 心理的アセスメント 2017 野島一彦編 公認心理師入門－知識と技術 日本評論社
24. 学校現場を支える学校カウンセリングの2国間比較 2017 松本真理子編 日本とフィンランドにおける子どものウェルビーイングへの多面的アプローチ 明石書店 (松本真理子と共同)

(論文)

1. 適応感とロールシャッハ反応の関連について－大学生を対象として－ 1979 ロールシャッハ研究, 21, 41-56.
2. 分裂病の慢性的経過におけるロールシャッハ像の変化－社会復帰への志向性の検討－ 1981 ロールシャッハ研究, 23, 25-40.
3. 女性性の内的受容に関する研究－序報・女子短大生の場合－ 1984 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 31, 193-209. (池田博和らと共同)
4. あるアイデンティティ模索青年の現在・過去・未来 1986 心理臨床(名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要), 1, 93-102.
5. 離れていくこと－母親と息子の場合－ 1987 心理臨床(名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要), 2, 3-10.
6. 留年現象を通してみた青年期の心理 1989 名古屋大学学生相談室紀要, 1, 13-21.
7. 学生相談室イメージの分析－大学入学時のアンケートにもとづいて－ 1990 名古屋大学学生相談室紀要, 2, 17-24.
8. 対人関係の問題で来談した新入生事例の検討 1991 名古屋大学学生相談室紀要, 3, 15-23.
9. 事例報告:幽香の感性 1992 心理臨床, 5, 50-56.
10. 名古屋大学における学生相談ネットワーク形成のための基礎的研究－適応援助活動に関する学部教官への面接調査 1992 名古屋大学学生相談室紀要, 4, 35-43.
11. 学生相談室に再度来談した事例の検討 1992 名古屋大学学生相談室紀要, 4, 21-27.
12. 私生活と臨床の境界領域 1993 心理臨床, 6(1), 31-34.
13. 中断事例の検討 1993 名古屋大学学生相談室紀要, 5, 30-40.
14. 学生相談におけるコンサルテーション機能－親面接に焦点を当てて－ 1994 名古屋大学学生相談室紀要, 6, 17-26.
15. 境界人格障害者のロールシャッハ・テスト－名大式「思考・言語カテゴリー」による検討－ 1995 心理臨床学研究, 12(4), 368-377. (高橋昇らと共同)
16. 「相談する」ということの意味 1995 健康文化振興財団紀要, 12, 13-16.

17. 学生相談における連携事例の検討－複数の関係者とかがわった3事例を通して－ 1995 学生相談研究, 16(2), 78-84.
18. 名古屋大学における学生相談ネットワーク形成のための基礎的研究(2)－1・2年生クラス担任教官への質問紙調査－ 1996 名古屋大学学生相談室紀要, 7, 28-38. (南淳三らと共同)
19. 医療短大新入生の特徴－95年度学生相談室アンケートの結果から－ 1996 名古屋大学医療技術短期大学部紀要, 8, 21-30.
20. 私は私をどれだけ知っているか－知らないことにも意味がある－ 1997 健康文化振興財団紀要, 17, 21-24.
21. “ことば・まなざし・こころ”の臨床－村上英治の遺したものから 1997 名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要, 12, 5-18. (後藤秀爾らと共同)
22. 学生相談室イメージと来談の関係－大学生を対象にして 1997 心理臨床学研究, 15, 406-415.
23. 心理療法への来談動機－研究の展望と今後の課題 1998 名古屋大学教育学部紀要(心理学), 45, 1-8.
24. 中絶事例に学ぶ 1999 名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要, 14.
25. 大学生の進路相談事例の分類－来談動機の視点から－ 2000 名古屋大学学生相談室紀要, 11, 12-24.
26. 「今どきの十代」の対人関係 2001 健康文化振興財団紀要29巻.
27. ロールシャッハ反応における限定づけ・修飾の系列化－名大式「思考・言語カテゴリー」による検討 2001 心理臨床学研究, 19(3), 311-317.
28. 名大式思考・言語カテゴリーの臨床的適用－ある境界性人格障害者の事例を通して－ 2001 心理臨床学研究, 19, 365-374. (高橋昇らと共同)
29. 現代青年の対人関係－学生相談へのかかわり方から－ 2002 更生保護.
30. 初回面接の役割と留意点－臨床実践を学ぶ大学院生による「覚え書き」作成の試み－ 2002 名古屋大学心理発達相談室紀要, 17, 3-12.
31. 男女共同参画の行方 2002 健康文化振興財団紀要33巻.
32. 青年期における「相談する」行動の意味－大学生を対象として－ 2004 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(心理発達科学), 50, 133-140.
33. 相談室の移転が相談活動に及ぼした影響－物理的環境の心理的意味を考える－ 2004 名古屋大学心理発達相談室紀要, 19, 3-20.
34. ロールシャッハ法教育における「専門家によるテスト体験」導入の意義 2004 ロールシャッハ法研究, 8, 61-70.
35. ロールシャッハ法「テスト教示」(Test instruction)についての一考察 2005 名古屋大学心理発達相談室紀要, 20, 13-17.
36. 青年期発達を支援する面接－能代論文へのコメント－ 2005 心理教育相談研究(岐阜大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要), 4, 87-89.
37. 看護学生の「人生のイメージ画」－死生観を探る媒介として－ 2005 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(心理発達科学), 52, 153-163.
38. 親面接で生じやすい問題と留意点－心理臨床を学ぶ大学院生の視点から－ 2006 名古屋大学心理発達相談室紀要, 21, 1-10.
39. Comparison of the physiological and psychological benefits of tree and tower climbing 2006 Urban Forestry and Urban Greening, 5, 141-149. (Gathright, Johnらと共同)
40. 心理検査から学ぶ 2007 臨床心理学, 7(1), 13-17.
41. 高校生を対象とした臨床心理学の授業－「関係」を通しての体験学習の試み－ 2007 名古屋大学中等教育研究センター紀要, 7, 1-11.
42. 高校教師から見た生徒や保護者とのコミュニケーションの問題－学校場面に関する調査から－ 2007 名古屋大学心理発達相談室紀要, 22, 3-7.
43. 被虐待体験をもつ小学生のロールシャッハ反応 2007 心理臨床学研究, 25, 13-24. (坪井裕子らと共同)
44. Recreational Tree-Climbing Programs in a Rural Japanese Community Forest: Social Impact and “Fun Factors” 2007 Urban Forestry and Urban Greening, 6, 169-179. (Gathright, Johnらと共同)

45. 学校教師の共感性を向上させる研修－「ラボラトリー方式の体験学習」におけるシェアリングの効果の検討－ 2007 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 54, 11-28. (鈴木郁子らと共同)
46. 高校生を対象とした協同ブロック制作の試み－個別描画場面との比較を通じた制作体験の検討－ 2007 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 54, 111-117. (加藤大樹らと共同)
47. 心理臨床家のアイデンティティと養成教育 2009 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 55, 167-178.
48. 「伝えること」と「伝わること」－心理療法の中で何が起きるか－ (石田論文へのコメント) 2009 場としての臨床－愛知淑徳大学心理臨床相談室紀要, 13.
49. ロールシャッハ法における日本人幼児の反応内容と領域 2009 心理臨床学研究, 27, 365-371. (白井博美らと共同)
50. 芸術療法の諸技法における体験過程に関する研究－コラージュ技法・風景構成法・ブロック技法の比較－ 2009 日本芸術療法学会誌, 39, 51-59. (加藤大樹らと共同)
51. Form, Content, and Gender Difference in Lego Block Creations by Japanese Adolescents 2010 Journal of the American Art Therapy Association, 26, 181-186. (Kato, Daikiと共同)
52. Relationships between Features of Collage Works, Block Works, and Personality 2010 Social Behavior and Personality, 38, 241-248. (Kato, Daikiと共同)
53. 心理臨床家のアイデンティティと養成教育、イニシャル・ケース経験について 2010 名古屋大学心理発達相談室紀要, 25, 21-30. (岩井志保と共同)
54. 大学生における両親の養育態度とS-HTPの描画特徴の関連－精神的成熟度からの検討－ 2010 臨床描画研究, 25, 128-145. (瀬瀬千晶と共同)
55. 日本人児童のロールシャッハ法におけるPopular反応 2011 心理臨床学研究, 28, 805-810. (松本真理子らと共同)
56. ロールシャッハ・カード特性と継列分析 2011 名古屋大学心理発達相談室紀要, 26, 13-17.
57. 「傷つき体験」からの出発－小田部論文へのコメント－ 2011 青年心理学研究, 23, 71-74.
58. 現代青年の友人への交流態度からみたS-HTPの描画特徴 2011 心理臨床学研究, 29, 634-639. (瀬瀬千晶と共同)
59. 臨床心理アセスメントにおけるフィードバックをめぐって 2012 名古屋大学心理発達相談室紀要, 27, 27-30.
60. 子どものロールシャッハ法における父親・母親イメージ図版の検討 2012 人間と環境, 3, 1-9. (坪井裕子らと共同)
61. 子どものロールシャッハ反応における形態水準とPopular反応の再検討 2012 心理臨床学研究, 30(3), 406-410. (袴田雅大らと共同)
62. Effects of collaborative expression using LEGO blocks, on social skills and trust 2012 Social Behavior and Personality vol. 40 (Kato, Daikiらと共同)
63. Japanese Children's QOL –A Comparison with Finnish Children– 2012 Japanese Journal of Child and adolescent Psychiatry, 53, 14-25. (Tuboi, Yukoらと共同)
64. 大学生における職業の選択に関する被援助志向性の研究 2012 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 59, 91-100. (成田絵吏と共同)
65. 文章完成法から見た小・中学生の学校における自己像および対人関係の発達的变化 2012 学校メンタルヘルス, 15(1), 67-78. (野村あすからと共同)
66. フィンランドにおけるひきこもり傾向児に対する多面的アプローチ－質問紙法、投影法、および行動観察を通じた自己像と対人関係の検討－ 2013 名古屋大学心理発達相談室紀要, 28, 25-36. (野村あすからと共同)
67. 臨床心理士養成大学院附属心理相談室における養成教育の現状と課題 2013 心理臨床学研究, 31(1), 152-157. (小林佐知子らと共同)
68. フィンランドにおける児童福祉施設の実態 2013 人間と環境, 6, 13-24. (坪井裕子らと共同)
69. 高校生を対象とした臨床心理学の授業－「心の減災」を学び、伝える－ 2013 名古屋大学中等教育研究セン

森田美弥子教授 略歴・研究業績

- ター紀要, 13, 3-14. (吉武久美らと共同)
70. 文章完成法から見た日本とフィンランドの児童生徒の自己像と対人関係 2013 心理臨床学研究, 37, 844-849. (野村あすからと共同)
71. 投映法と水準仮説に関する文献展望—有効なテスト・バッテリー構築のために— 2013 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 60, 111-119. (土屋マチと共同)
72. 摂食障害症状を呈しつつ、ひきこもりからの出立を目指すAさんの事例—白木論文へのコメント 2014 日本福祉大学心理臨床研究センター紀要9巻.
73. 児童生徒を対象とした心の減災能力養成に関する研究—現状調査とプログラム開発を中心に— 2014 東海心理学研究, 8, 2-11. (松本真理子らと共同)
74. 高校生の進路選択における親のサポートについて—進路選択に関する自己効力と行動との関連から— 2015 キャリア教育研究, 33, 47-54. (成田絵吏と共同)
75. 小学生の対人葛藤解決方略とQOL—授業中の意見相違場面に焦点を当てて— 2015 学校メンタルヘルス, 17(2), 152-161. (鈴木伸子らと共同)
76. 心理発達相談室紀要総監30周年記念座談会「異なる領域、世代から見た心理臨床—相談室紀要を振り返りながら」 2015 名古屋大学心理発達相談室紀要, 30, 5-14. (野田麻理らと共同)
77. 高校生を対象とした臨床心理学の授業—ストレスマネジメントを学ぶ— 2015 名古屋大学中等教育研究センター紀要, 14・15, 3-17. (松本由未子らと共同)
78. 大学附属心理相談室プレイルームの物理的環境に関する研究—空間と構成要素がもつ機能— 2015 名古屋大学心理発達相談室紀要, 30, 35-46. (石川佳奈らと共同)
79. Japanese university students' stigma and attitudes toward seeking professional psychological help 2015 Online Journal of Japanese Clinical Psychology, 2, 10-18. (Ina, Moeと共同)
80. 中学生における動的学校画の病理指標とQOLとの関連 2015 ロールシャッハ法研究, 19, 57-64. (垣内圭子らと共同)
81. 成人を対象とした心の減災教育プログラムの開発とその効果 2016 人間と環境 (電子版), 12, 1-11. (吉武久美らと共同)
82. 名大式ロールシャッハ法から見えてくる心の世界 2016 静岡大学心理臨床研究, 15, 3-13.
83. 小学校高学年を対象とした心の減災教育プログラムにおける効果検証—同時効果モデルを用いた呼吸法対処効果感、認知の修正、対人の信頼感の関連 2016 学校メンタルヘルス, 18(2), 147-151. (鈴木美樹江らと共同)
84. 日本の子どもの学校と友だちに関するQOL—フィンランドの子どものこととの比較から— 2016 人間と環境, 6, 31-39. (坪井裕子らと共同)
85. 心理療法で大切なことは何か—川戸論文を「紐解く」— 2016 場としての臨床—愛知淑徳大学心理臨床相談室紀要, 20, 59-61.
86. 日本とフィンランドの小中学生における「わたし」をめぐる連想 2016 心理臨床学研究, 34, 95-101. (大矢優花らと共同)
87. 理系学部1年生における「わたし」イメージ 2016 名古屋大学学生相談総合センター紀要, 15, 20-28. (松本真理子らと共同)
88. 小中学生における対人葛藤解決方略とQOLとの関連—授業中の意見相違場面に焦点をあてて— 2016 愛知教育大学教育臨床総合センター紀要, 6, 55-62. (鈴木伸子らと共同)
89. カウンセラーに対する知識とイメージの検討—身だしなみや外見に着目して 2016 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 63, 119-128. (清水麻莉子と共同)
90. 児童養護施設における学習・進路の問題とその支援に関する研究動向と課題 2016 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 63, 111-118. (柴田一匡と共同)
91. 本邦での大規模自然災害における子どもの心のケアに関する文献展望 2016 心理臨床学研究, 34, 557-567. (渡邊素子らと共同)
92. 小学生における学級内の対人葛藤解決方略と承認・被侵害感との関連 2017 心理臨床学研究, 35, (鈴木伸子らと共同)

森田美弥子教授 略歴・研究業績

93. 新入学時のスクリーニングテストにおけるカットオフポイントの有効性の検討ー主として連携との関連からー
2018 学生相談研究, 38. (酒井渉らと共同)



森田 美弥子 教授